

まるカン2023

ひっかけ
問題

基礎看護学

1 患者の権利について適切なのはどれか。2つ選べ。

[第103回 午前 86問]

1. 患者は自分の医療情報を見ることができる。
2. 患者は一度同意した治療方針を拒否できない。
3. 患者はセカンドオピニオンを受けることができる。
4. 患者が病室に不在の場合は検査の同意を家族から得る。
5. 患者情報は患者と家族の同意なく保険会社に開示できる。

患者の権利とアドボカシーはセットで理解しておこう。

リスボン宣言を元に考えることが必要である。リスボン宣言では10の患者の権利が挙げられている。患者の知る権利（情報に対する権利）を示すものが1、選択の権利を示すものが3である。患者はいかなる治療段階であっても治療方針への要望を言及でき、さらに異なる医師への相談（セカンドオピニオン）も可能である。患者の自己決定権を尊重した考え方が重要である。小児や、精神疾患などで自己決定ができない人の権利擁護を含めて学習しておこう。【答え 1・3】

2 成人へのインフォームド・コンセントで最も適切なのはどれか。

[第103回追試 午前 40問]

1. 初めに家族に説明する。
2. 形式的に病状の説明をする。
3. 患者が理解したか確認する。
4. その場での意思決定を促す。

誰を対象としているのかによって、回答に迷いが生じる可能性がある。

成人期にある人へのインフォームド・コンセントを問う問題である。自律し、自ら意思決定ができる成人期への適切な介入は3であるが、回答に迷いが生じるものとして4を挙げる。自律や意思決定ができる成人期であっても、説明内容を熟考する時間は必要である。【答え 3】

3 良質の医療を受ける権利を宣言しているのはどれか。

[第107回 午前 32問]

1. リスボン宣言
2. ヘルシンキ宣言
3. ジュネーブ宣言
4. ニュルンベルク綱領

各宣言が何を主張しているのかを整理して覚えることが重要である。「良質の医療」は、リスボン宣言（1981年～）の主張である。では、ヘルシンキ宣言、ジュネーブ宣言、ニュルンベルク綱領は、何を主張しているのか。ヘルシンキ宣言（1964年～）は人間を対象とする医療研究の倫理的原則についての宣言、ジュネーブ宣言（1948年）は医師の倫理についての宣言、ニュルンベルク綱領は人間を被験者とする研究に関する倫理原則である。

このように、すべての選択肢についておさえておくことで、確かな知識のもと、自信をもって正答を選択できる。【答え 1】

4 嚥下障害を評価する改訂水飲みテストで正しいのはどれか。

[第108回 午後35問]

1. 嚥下後10秒間で評価する。
2. 嚥下動作の準備期を評価する。
3. 嚥下後の呼吸状態を評価する。
4. 80mLの水の嚥下状況の評価する。

改訂水飲みテストでは、嚥下状態やむせの有無、咳嗽の有無、呼吸状態を観察して、主に口腔期～食道の咽頭期の嚥下障害の有無を評価する。少量（3mL）の冷水を飲んでもらい、嚥下後30秒間観察し、すべての水を飲み込んだ後に誤嚥がないか、呼吸状態を確認する。【答え 3】

5 グリセリン浣腸を実施する際、腸管穿孔の危険性が最も高い体位はどれか。

[第106回 午後19問]

1. 立位
2. 仰臥位
3. 腹臥位
4. 左側臥位

立位は肛門部の緊張が強く、肛門から腸管への走行がわかりにくいいため、浣腸チューブを挿入しにくい。また、肛門部を観察しにくく、カーブしている直腸にまっすぐに挿入しがちであるなど、腸管穿孔の危険性が最も高い。グリセリン浣腸において最も適切な、大腸の走行を考慮した体位は、左側臥位である。側臥位がとれない場合、やむを得ず仰臥位で行う場合もあるが、浣腸液が流出しやすい。また、腹臥位は腹部が圧迫され、肛門部の緊張が強くなりやすいため、浣腸チューブを挿入しにくく、避けたほうがよい。【答え 1】

6 腹部の触診で適切なのはどれか。

[第99回 午前40問]

1. 聴診の前に実施する。
2. 仰臥位で膝を伸展させる。
3. 深いところから徐々に浅く触れる。
4. 疼痛のある部位は最後に触れる。

患者の安楽・安全を考え、フィジカルアセスメントを行う。腹部のフィジカルアセスメントでは、触診・打診の刺激によって腸蠕動に影響してしまう可能性があるため、触診は聴診の後に実施する。また、疼痛のある部位に先に触れてしまうと、痛みのために筋肉に力が入り、触診がうまくできなくなるため、最後に触れる。

【答え 4】

7 創傷治癒遅延と関連が低いのはどれか。

[第 98 回 午前 23 問]

1. 貧血
2. 高血糖
3. 高尿酸血症
4. 低アルブミン血症

周術期に関わる看護師は、術前には最善の状態です手術が受けられるようにし、術後は疼痛コントロールを行い、早期離床を促し、合併症を発生することなく回復できるように看護する。創傷治癒遅延に影響を及ぼす因子として、局所因子では、創感染、壊死、血液供給不足、酸素供給不足、圧力、創の衛生状態などがある。全身因子では、糖尿病、低栄養状態、副腎皮質ステロイド薬の使用、高齢、喫煙などがある。【答え 3】